

## 編集委員会から

### スクショ

外来語はカタカナ表示され、さらに複数の語で構成されるときは短縮化されます。これを複合語短縮というそうです。デジカメ、パソコン、エアコンなど、良く考えると驚くほどの数の複合語短縮が日常的につかわれています。

複合語短縮については、基本は2拍+2拍で、その他に、一般的な例外規則があるという研究結果も報告されています。また、長すぎる外来語の複合語は定着しないので、短縮されたものだけが生き残るとも指摘されています。

なぜ、このようなことを書いたかという、このところよく目につく“スクショ”という言葉が、すぐにわからなかったからです。スクショはスクリーンショットの短縮です（厳密にはスクリーンショットは複合語ではなく、one word）。基本的には、PCあるいはスマホ（これも複合語短縮）の画面（スクリーン）のイメージを、そのままファイル化したものを指します。Webで必要なページをスクショしてメモにすることは多いと思います（地図も、多いですね）。現在、問題になっているのはスクショが著作権侵害になるのではないかという議論です。

“編集委員会から”でも、著作権について、数回話題にしています。今後、数か月で結論がでるようですが、今回、議論されている“スクショ”問題は、複雑です。

これからも、つぎつぎに複合語短縮が登場してくるのでしょうか。はたして、どこまでついていけるか不安ですね（複合語短縮は外来語のみならず、外来語+日本語、あるいは日本語+日本語でもできていきます）。

今回は、日本食品工学会誌に直接関係する話題ではありませんが、原稿中に複合語短縮が出てきたときはどうでしょうか。



#### 参考文献

日比谷潤子. 複合語短縮. 世界の日本語教育. 日本語教育論集, 8, 47-65 (1998).